「ふるさと再発見」

～「知床学」を通して、ふるさと「羅臼」の良さを知る～

学校名　　羅臼町立羅臼中学校
校長名　　相　澤　　要
担当者　　教頭　齋藤　征志

１　本校の ESD の特徴

『「自立した大人になるための基礎を育む」をイメージしながら＝１５年後の生徒の姿』をテーマに本校の教育活動は行われている。

テーマ達成のための方法の１つにＥＳＤを位置づけ、世界自然遺産の地「知床」をフィールドとして学習している。その学習のねらいの中心は、郷土の自然を素材とした学習や体験を重ねることにより、「ふるさと」の良さを再発見し、「羅臼町が好き」「将来羅臼町に住みたい」と思う生徒を多く育てることである。

２　教育課程の位置づけ

総合的な学習の時間　羅臼町立羅臼中学校　全体計画

関係法規等
日本国憲法　教育基本法
学校教育法　学習指導要領
道・市町村教育施策

学校教育目標
明るく健康な心身を持ち《健康》
自ら考え、《探求》
協力し責任を持って最後までやり抜く《責任》
生徒の育成

生徒の実態
明るく、素直で伸び伸びとしている。
男女、学年問わずに仲良くできる。
元気のよい挨拶が出来る。
授業における学習態度が立派である。
家庭での学習習慣が不十分である。
粘り強く取り組む姿勢が不十分である。
自己有用感が持てないものがいる。

総合的な学習の時間の目標
自主的・実践的な生徒の育成

保護者の願い
・他人や自分をいたわり思いやりのある人間になって欲しい。
・協調性を身につけてほしい。
・自分の行動に責任を持ってほしい。
・基礎学力を付けてほしい。

総合的な学習の時間におけるめざす生徒像
自らの課題を見つけ、問題解決に向けて主体的に学習に取り組む生徒。
ふるさとの良さを尊び、ふるさとを大切にしようとする生徒。
自己を正しく理解し、自己実現に努力する態度を持ち、将来に向かっての進路選択が出来る生徒。

地域の願い
○たくましく行動する心豊かな生徒。
○地域の発展を願う生徒。

育てようとする資質や能力及び態度
・自ら課題を見つけ、問題解決に向けて主体的に学習に取り組む態度を育成する。
・キャリア教育を通じて、意思決定能力、人間関係形成能力、将来設計能力、情報活用能力を高める。
・自ら与えられた課題について、情報を調べ、まとめて、外部に発信する力を育成する。

地域の実態
自然が豊富であり、それを指導する人材が豊富である。
外部との交流が少なく、閉鎖的な面も見られる。

総合的な学習の時間の２つの柱

知床学
ふるさと調べ＜観光パンフレット作り＞
地域学習＜クマ学習、生態系学習、水産講演会＞

キャリア教育
職業調べ、職場体験を通じた職業観、勤労観の育成
講演会等を通じた

		第１学年	第２学年	第３学年
学年の目標		地域や職業についての自分から課題を見つけ、情報を集め調べる能力を身につける。	地域や職業についての自らの課題について調べて学んだ内容をまとめる能力を身につける。	地域や職業についての自らの課題について調べて学んだ内容をまとめ、外部に対して発信する力を身につける。
学習活動	１学期	オリエンテーション パンフレット作成＜羅臼の観光＞ 一斉調べ学習＜観光名所巡り＞ クマ学習Ⅰ	オリエンテーション パンフレット作成＜羅臼の自然＞ 一斉調べ学習＜ホエールウォッチング＞ 生態系学習＜川における生態＞	オリエンテーション パンフレット作成＜羅臼の味覚＞ 一斉調べ学習＜地元食材の調理＞ クマ学習Ⅱ 上級学校訪問準備
	２学期	パンフレット配布＜町内施設＞ 清掃ボランティア 職業調べ 水産講演会 中高一貫講演会	パンフレット配布＜宿泊研修＞ 清掃ボランティア 職場体験 水産講演会 中高一貫講演会 職場体験まとめ	パンフレット配布＜修学旅行＞ 上級学校訪問 清掃ボランティア 水産講演会 中高一貫講演会 総合的な学習の時間のまとめレポート作成＜連携型入試対応＞
	３学期	職業調べ ユネスコスクール研究発表会 職業調べ発表会	ユネスコスクール研究発表会 職場体験レポート発表会	総合的な学習の時間のまとめレポート作成 ユネスコスクール研究発表会 レポート発表

他教科や教育活動との関連

各教科を通じた、思考力・判断力・表現力、学ぶ方法・姿勢
道徳を通じた、価値を主体的に自覚し、人間としてのよりよい姿を求める姿
特別活動を通じた、生徒の自主性や創意工夫、奉仕活動への啓発

外部の教育資源の活用
知床財団、ビジターセンター《知床学》
地域の商店街、漁業関係《キャリア教育・講演会》
ユネスコスクールにおける他校との情報交換・研修

異校種との連携や交流
中高一貫による総合学習のつなぎと発展を意識した６年間の指導計画づくり

本校では総合的な学習の時間に位置づけ、「知床学」と「キャリア教育」の２本の柱で、各学年で取り組んでいる。

【知床学】
○ふるさと調べ
・観光パンフレットの作成
○地域学習
・クマ学習
・生態系学習
・自然講演会（自然・水産等）
・一斉清掃

【キャリア教育】
○職業について
○ボランティア活動

↓

総合的な学習の時間での学びをプレゼンテーションし、町民へ発信する。

３　活動事例

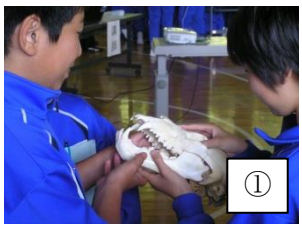
（１）パンフレットの作成

１年生「観光」、２年生「動植物」、３年生「味覚」をテーマに全員が１枚の作品を作り、校内の審査会において各学年の優秀作品を選び、１つのパンフレットを完成させる。

各学年が、調べ学習や、講師を呼んで学習した内容をまとめ作成している。完成したパンフレットを３年生は修学旅行時に札幌駅構内で配布。２年生は斜里町の協力を得て、ウトロの道の駅で配布。１年生は羅臼町内で観光客向けに配布するなどの PR 活動を行っている。

（２）クマ学習

（財）知床財団などの協力を得て、ヒグマに対する正しい知識や遭遇時の対応を学ぶ学習である。「人とクマが共存する町、羅臼」をデータや体験などから考える体験型の学習である。



①動物の頭蓋骨の確認
②クマに遭遇した時の対処法
③電牧の効果

（３）生態系学習

羅臼高校の教員の協力を得て、川や海の周辺に生息する動植物や海と森をつなぐ知床の豊かな生態系の全体像を学ぶ。

知床は独特な地形により、川が短く下流でも上流域息の貴重な生物が多数存在することを学ぶ。また地域の環境施設を利用しての講義などで学習をする。

（４）ボランティア活動

羅臼の自然を守るために、ゴミ拾いボランティアを行うだけでなく、地域行事等を通してゴミのポイ捨て禁止の啓発活動を行った。

地域のお祭りで、「ゴミレンジャー」がステージ上からゴミのポイ捨て、分別を呼びかけたり、ポイ捨て禁止の看板を作成し呼びかける。

４　成果と課題

「持続可能な社会づくりの担い手となる人間の育成」を目指し、羅臼町では全校が「ユネスコスクール」に加盟し活動を行っていくという方針がある。各学校の活動が幼・小・中・高と一貫した流れで実践できるのが強みであり、それを生かして学校独自の活動も行われている。アンケート結果等では生徒の「ふるさと」に対する意識にも変化が出てくるなどの成果が出ている。課題は、幼小中高一貫した全体計画が示されているものの、活動の内容が地域にまで浸透していないことである。町民にも、それぞれの校種の活動のねらいを広く知らせることで、町民は子どもたちの活動を理解し町として何が必要なのかを青年部や壮年部など様々な視点で考えることができ、今の生徒が１５年後活躍できる基礎やヒントが生まれるであろうと考える。